

ヒマワリの種で福島支援

食用油の生産販売活動 当別の大沢さん共鳴

収益は子供の保養事業に

【当別】庭にヒマワリを植えて、福島の子供たちを支援しよう。当別町内のアパート経営、大沢俊信さん(60)が、食用のヒマワリを植えて種を採り、福島に送る活動を始めた。種は福島の障害者施設でヒマワリ油として商品化され、収益は東京電力福島第一原発事故で、外で思い切り遊べない子供たちの保養事業に活用される。大沢さんは「東日本大震災から5年たち、記憶を風化させないために取り組みたい」と仲間を募っている。

(成田智加)



福島市のNPO法人シャロームが取り組む「ひまわりプロジェクト」の一環。シャロームは、2011年の震災以前から、農家と障害者が協力して食用ヒマワリを栽培し、油を採って製品化する活動を支援してきた。しかし、原発事故による土壌汚染で栽培を中断せざるを得なかった。12年から、全国の支援者が福島に代わってヒマワリを育てる同プロジェクトを始めた。

福島の障害者施設でヒマワリ油を生産し「みんなの手」(180g、1200円)の商品名

育てたヒマワリの苗と、福島で商品化されたヒマワリ油「みんなの手」を手にする大沢俊信さん

栽培し現地へ 賛同者を募集

で販売する。収益は、自由に外で遊べない子供たちを対象に、福島県外で自然体験などを行う活動に活用されている。昨年は、札幌や小樽を含め全国約280の個人・団体の参加があった。

大沢さんも昨年夏、このプロジェクトに賛同し個人で参加。播種用の種を約300gほど、7gの油用の種を収穫して福島に送った。同12月には、シャロームが主催する福島市での交流会に出席した。「子育て中の母親たちの不安の声をじかに聞き、衝撃を受けた。ヒマワリを育てる過程を通じて、原発事故を忘れずにいたい」と話す。

大沢さんは今年、この取り組みを当別町内の人にも知ってもらおうと、シャロームから播種用の種を1g取り寄せた。自宅の畑にまいたほか、賛同者に配布できるように苗を600ポット分栽培した。30日まで希望者に苗を無料で配っている。またヒマワリ油「みんなの手」の販売代行も行っている。問い合わせは大沢さん ☎27・5006へ。